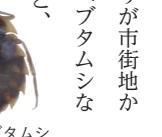


うきは市の特徴紹介

◆『水のまち』うきは

「水のまち」うきはと称されるように、うきは市は水環境に恵まれ、生活用水は全て地下水でまかなわれています。耳納連山と阿蘇山を水源とする筑後川水系から滲み出る豊富な地下水は、古くから地域の暮らしを支え、市民の暮らしと地域経済に欠かすことのできない貴重な財産となっています。

また、水辺に暮らすカエル類やイモリが市街地から山間まで広く見られるほか、トゲナベブタムシなどの良好な水域を好む種がみられるなど、「水のまち」うきはを特徴づける生きものが生息しています。



◆石積みの棚田

耳納連山の水の恵みと、山を拓き、石を積み上げた人々の努力が『うきはの棚田』を作りあげました。「空(から)石積み」という方法で積み上げられた石積みは、今でも地域の人々の努力によって守られています。



石積みの隙間にマムシがいるよ!

また、トカゲ類やヘビ類などの爬虫類は、すみかや隠れ場所として石積みを利用しており、うきはの石積みは生きものにとっても大事な存在となっています。



耳納連山を源流とする巨瀬川、小塩川、隈上川。筑後川に注ぎ込む、うきはの豊かな恵み。

うきは市の 環境と生きもの



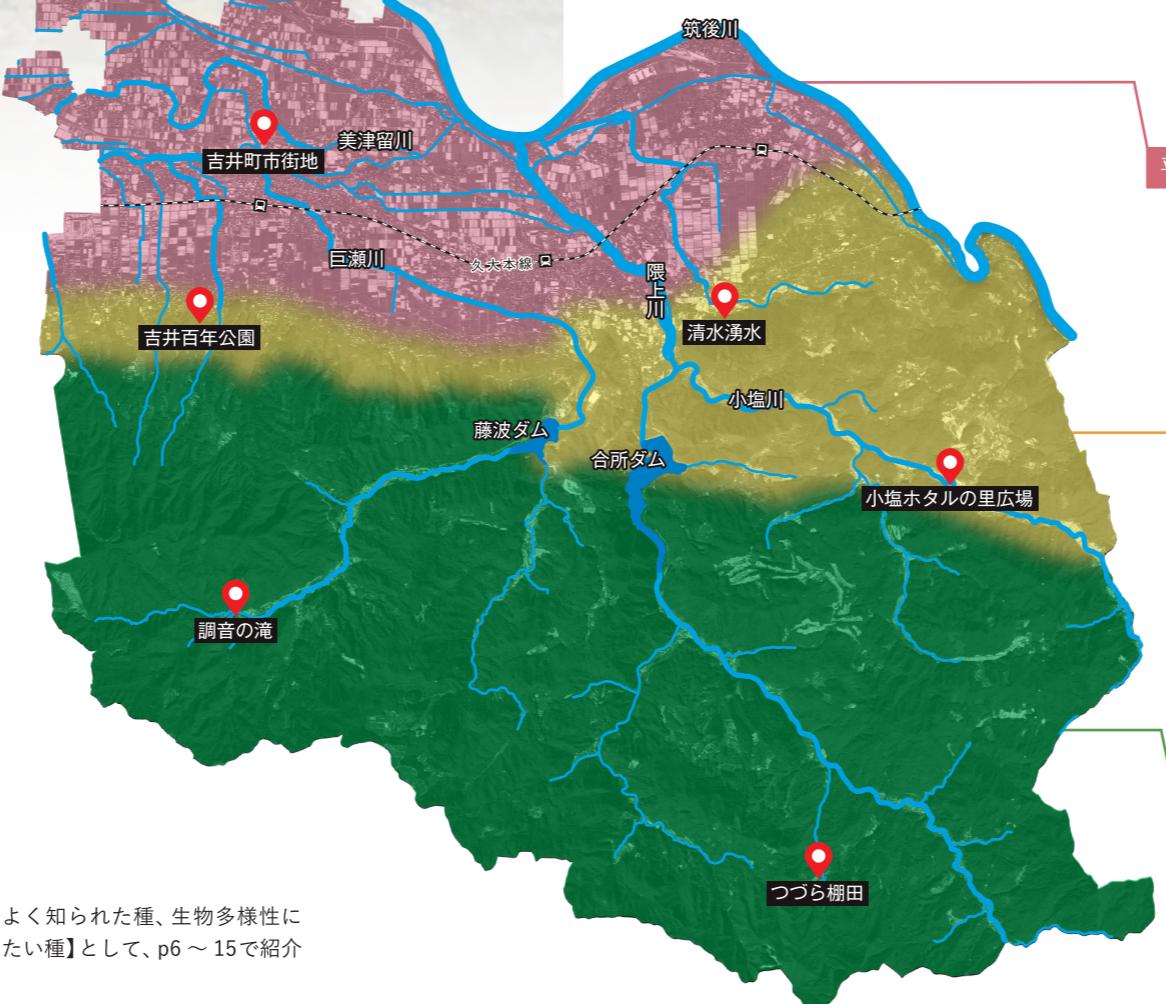
うきはテロワール 7大自然要素

テロワールとは、生育地の地理、地勢、気候の特徴をさすフランスで生まれた言葉です。うきは市はフランスのワイン産地ボルドーやアルザスとよく似た日本でもめずらしい地質・地形を有していることもあり、うきは市の農業をとりまく環境を「うきはテロワール」と名付けました。



▶うきは市では2022年度に📍で示した市内6カ所において、生物調査を実施しました。

※生物調査で確認された種の中から、自然環境の動向を表す種(=環境指標種)、身近でよく知られた種、生物多様性に迫る4つの危機に関係する種などを選んで、【地域で見守っていきたい種・注意していきたい種】として、p6～15で紹介しています。



筑後川の南には、肥沃な水田や畑が広がります。また、筑後川や耳納山地を源流とし、筑後川に注ぐ、巨瀬川や隈上川などの河川が見られます。

見られる生きもの
イヌガラシ、セリ、コナモ、マコモ、タヌキ、カワセミ、スマガエル、スッポン、ギンヤンマ、クマゼミ、オイカワなど



耳納山地山麓の丘陵部には、山林や果樹園が広がり、秋にはカキの葉が色づき山肌が赤色で染まります。また、所々にため池があります。

見られる生きもの
スミレ、ノアザミ、キツネ、キビタキ、アカハライモリ、コマルハナバチ、ゲンジボタル、アブラゼミ、カワムツなど



耳納山地の山間には渓流が流れ、樹林が広がります。山間の集落には、石積みの棚田が見られ、所々にため池が見られます。

見られる生きもの
スダジイ、ヤツツバキ、イノシシ、クマタカ、アオバト、カジカガエル、ミヤマクワガタ、ヒグラシ、タカハヤ、ヘビトンボなど



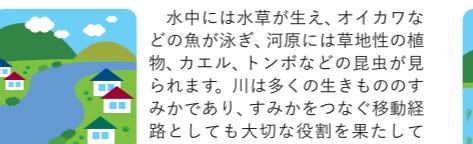
▶身近な環境は、様々な生きもののすみかとなっています。



水中には水草が生え、オイカワなどの魚が泳ぎ、河原には草地性の植物、カエル、トンボなどの昆虫が見られます。川は多くの生きもののすみかであり、すみかをつなぐ移動経路としても大切な役割を果たしています。



水中には小魚やゲンゴロウなどの水生昆虫、水辺にはカエルなどが生息し、これら小動物を餌とする鳥や獣が利用しています。また、カイツブリなどの水鳥や、カモなどの渡り鳥が羽を休める大切な場所になっています。



水田にはカエルやトンボなど、水路にはメダカなどの小魚や貝類など、畦や畑には草地を好む昆虫がすんでいて、これら小動物を食べる鳥やヘビなどが見られます。農耕地は、水辺や草地を好む多くの生きもののすみかとなっています。

農耕地
見られる生きもの
果樹園
林内には葉や落ち葉、花の蜜、果実などがあり、これらを餌とする昆虫、鳥、ネズミなどの小動物がすんでいます。また、小動物を餌とする猛禽類や獣が見られ、山林は多くの生きもののすみかとなっています。



果樹に咲く花の蜜や、花粉に集まるハチやエビの仲間、果実に集まる虫やヒヨドリなどの鳥が見られるほか、果樹園の下草にはバッタ類、それを餌とする鳥や獣が利用しています。

見られる生きもの
山林
林内には葉や落ち葉、花の蜜、果実などがあり、これらを餌とする昆虫、鳥、ネズミなどの小動物がすんでいます。また、小動物を餌とする猛禽類や獣が見られ、山林は多くの生きもののすみかとなっています。